令和４年度　**授業改善推進プラン**　蓮根小学校

【１年】　○＝よい点　●＝課題

国語

■児童の状況	○ひらがなの学習に意欲的に取り組んでいる。 ○デジタル教科書を用いて視覚的・聴覚的に示していくことで、文章中の大事な言葉や文を書き抜くことができるようになってきた。 ○多くの児童が、話す聞くスキルなどリズムの良い音読に意欲関心をもって取り組んでいる。 ●教科書の内容を読み取ったり、教科書から抜き出したりすることが難しい児童がいる。 ●長音や促音、拗音、助詞の定着の差が大きい。 ●書くことへの苦手意識があり、言葉や文を書く技能の習得・向上に時間がかかる。
■指導についての課題	・語彙力が身に付く教材、教具の工夫 ・読む力が楽しく身に付く音読指導 ・ICTを活用した教材の用意 ・書くことへの意欲を向上させるための手立て
■授業改善に向けての具体的な方策	・図書の時間を確保し、絵本の読み聞かせを積極的に行うことで、読書量や語彙を増やし、想像を広げながら読む活動を充実させる。 ・短い文を書く機会を多く設け、書く意欲を向上させる。 ・行事ごとに作文を書く機会を設け、楽しく書く経験を増やす。 ・MIMを学習に取り入れて、長音、拗音、促音、拗長音のある言葉を正しく話し、書くことができるようにする。

算数

■児童の状況	○意欲的に足し算、引き算などの学習に取り組んでいる。 ○10までの数を正しく数え、書くことができる児童が多い。 ●数の概念がまだあまりない児童が数名いる。 ●文章題から加法か減法かを考え、立式することを苦手とする児童がみられる。 ●早く問題に取り組もうとするあまり、正確に計算ができていない児童がいる。
■指導についての課題	・数を足したり引いたりする活動を日常生活の中で意識化させる工夫 ・文章問題で、示されている条件や問われている事柄を把握する力を育む指導の工夫
■授業改善に向けての具体的な方策	・算数ブロックを使った作業に繰り返し取り組ませ、数や量が増えたり減ったりすることへのイメージをもたせる。 ・家庭と協力し、生活の中で具体的な場面を設けて足し算、引き算のイメージをもたせる。 ・文章問題に出てくる数字や、足し算となる言葉（合わせて・ぜんぶで等）や引き算となる言葉（残りは・～減ると等）などのキーワードに印を付け、繰り返し問題演習を通して練習をする。 ・定規で線を引く、枠からはみ出さず丁寧に書く、最後のたしかめをするなど、丁寧さを身に付けられるよう繰り返し指導する。

生活	
■児童の状況	○人や自然と関わることに関心をもち、楽しく活動することができる。 ●活動を通して気付いたことや感じたことを表現する力に個人差がある。
■指導についての課題	・生活体験の個人差を補う体験活動の充実 ・追究したいと思える学習活動の設定 ・多様な表現方法があることを知り、その方法に慣れさせるための指導法の工夫
■授業改善に向けての具体的な方策	・自然に触れる活動や継続的な栽培を積極的に取り入れる。 ・実際に肌で感じることができる場面を多く設定し、経験を通して気付いたことを大切にするよう声をかける。 ・様々な表現方法を身に付けるために、見付ける、比べる、例える、繰り返す、試す等の活動を繰り返し行わせる。 ・表現の深まりや広がりを促すため、気付きを文章化して伝えられるよう、記録カードを工夫する。 ・活動を通して気付いたこと、考えたことを伝え合う場をつくり、友達の考えや気付きを共有することで、気付きの質を高める。

音楽	
■児童の状況	○曲に合わせてリズムを打ったり、体を動かしたりしながら、生き生きと歌を歌ったり、踊ったりしている。 ○音楽とゲーム（じゃんけん等）を組み合わせたリズムゲーム等を用いて楽しくリズムを感じ取っている。 ○曲に合わせて打楽器を演奏することを楽しんでいる。 ●鍵盤ハーモニカの指使いが定着していない児童、リズムをとることが難しい児童が見られる。
■指導についての課題	・鍵盤ハーモニカの息づかいやタンギングの指導方法、及び、家庭での取り組み方の提示の工夫 ・鍵盤ハーモニカの指使いを意識させる指導の工夫 ・拍を感じ取ってリズムを打つことが困難な児童への指導の工夫
■授業改善に向けての具体的な方策	・鍵盤ハーモニカを程よい吹き方、息づかいの仕方などの動画を見せ、イメージをもたせて練習する。 ・指番号を用いて繰り返し指導を行い、正しい指使いを意識できるようにする。 ・拍の分かりやすい曲に合わせ、繰り返し拍を打つ練習を行う。 ・友達の無理のない歌声や正しい音程を更に多く聴かせ、自分の声の出し方を意識することにつなげる。

図画工作	
■児童の状況	○造形活動を楽しみ、意欲的に取り組む児童が多い。 ○お互いの作品を鑑賞し合い、作品のよさに気付いている。 ●色を塗る、はさみで切る、のりを付ける等の手を使う基本的な活動の作業時間に個人差が見られる。 ●自分の発想に自信をもって表現できず、例や友達の作品をまねる児童が見られる。 ●丁寧に作業することが苦手で雑に仕上げてしまう児童がいる。
■指導についての課題	・形にとらわれたり、作品のイメージがつかめなかったりする、自由創造活動が進まない児童への支援 ・自分の発想を大切にして、自信をもって造形活動に取り組める導入や助言の工夫
■授業改善に向けての具体的な方策	・自分のイメージに作品がより近付くように、身近な自然物や様々な材料を用意して、発想や思考を広げやすくする。 ・デジタル教科書を活用し、はさみの使い方やのりの使い方を丁寧に繰り返し指導する。 ・児童がもっているイメージを具体的に把握し、なるべく想像したものに近いものを作り、自信がつけられるよう積極的に支援をする。

体育	
■児童の状況	○休み時間等は積極的に体を動かし外遊びを行っている。 ○体を動かすことを楽しみ、運動に対して意欲的である。 ○勝ち負けに固執せず、頑張ったことを称え合いながら活動できる児童が多い。 ●一生懸命活動に取り組むあまり、ルールを破ってしまったり、自分本位な発言をしてしまったりする児童がいる。 ●体の使い方をイメージできず、動作化できない児童もおり、個人差が大きい。 ●失敗することへの不安感が強い児童もいる。
■指導についての課題	・児童がルールを守り、楽しく活動に取り組ませる指導法の工夫 ・多様な動きをつくる運動遊びの工夫 ・運動量や感染予防対策をしながら、意欲的に運動や遊びに取り組ませる指導法の工夫 ・投げる力を伸ばす指導法の工夫
■授業改善に向けての具体的な方策	・最初だけではなく、授業を行う最中にも何度もルールを確認したり、児童自身でルールを考えさせたりする。 ・様々な運動に対する感覚（走る・蹴る・跳ぶ・バランスを取る・くぐる・まわる等）を高められるよう、フラフープやなわとびを活用した遊び、ボール遊び、鬼遊び等の活動を取り入れる。 ・動きを互いに見合い、助言する中で、よい動きの学び合いを図る。 ・成功体験を増やし、運動の楽しさや、気持ちよさを感じさせる。 ・目標（投げる高さ、角度など）を明確に示しながら指導を行う。